

会議名	令和7年度第2回小高小学校・小高中学校のあり方に係る保護者懇談会
日時	令和8年3月7日（土） 10:00 ～ 12:00
場所	おだか認定こども園 遊戯室
参加者（庁内）	教育長、教育委員会事務局長、学校教育課長、学校教育課教育企画担当課長ほか
参加者（庁外）	小高区保護者12世帯 14人 ※オンライン含む

【説明・協議事項】

（１）小高小学校・小高中学校のあり方についての検討プロセスの見直しについて

保護者から、説明や意見交換の機会が不足しているとの意見を受けて、当初想定していた検討プロセスの見直しを行ったことから、その内容について説明。

①質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	追加資料1別紙の「これまでの進め方」のAからFは見直して変えるということか。	AからFの検討プロセスを見直し、以下の手順で進める。 保護者から意見を収集する→意見を基に協議会で方針を検討する→まとまった方針を皆様に提案する。
2	「見直した検討プロセス」の1から5は、「これまでの進め方」のA～F及び「具体的な進め方」Step1～7のどこに該当するのか。	「見直した検討プロセス」の「4. 保護者や地域の方と方針案を話し合う」という内容が、「これまでの進め方」のA～Cに、「具体的な流れ」のStep3～6に該当する。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
3	「見直した検討プロセス」5の基本方針とは、どのようなものか。	基本方針については、今後の小高小学校・中学校のあり方について、保護者のご意見を踏まえて協議会で検討し、どのような形で今後のあり方を進めていくかをまとめたものを基本方針として作成するイメージで考えている。ただし、今後のあり方が、現状から大きな変更がない場合は基本方針を作成するかどうかの検討は必要となる。 また、プロセスの見直しについて、令和7年9月に保護者懇談会を実施した際には、令和3年4月の小高区4小学校再編に向けて決定した方向性に基づいたものであり、義務教育学校が前提となっていたが、現在の保護者からすれば、自分たちの意見が入っていないように感じられたと思う。 今いる保護者が義務教育学校を望んでいる前提で話をスタートしたところが間違いであった。保護者が何を望んでいるのか、小学校と中学校でどういうあり方、どういう教育環境を望んでいるのかというような声をまずお聞きする、スタート地点に戻らせていただき、保護者が望んでいるものをお伺いしたいというのが、プロセスの見直しとなっている。
4	保護者が義務教育学校の小中一貫で一つにしないでいいですとなった場合、市としては白紙に戻すことはできるということの前提で話を進めて良いのか。	教育委員会としては、9年間一貫した施設で学べる「義務教育学校」が、子どもたちにとってより良い環境であるという方向性を持っているが、保護者が同じ方向を向いてもらえるかが大切だと思っている。教育委員会としては、小中が同じ学区になる場合については、義務教育学校や小中一貫を可能な限り入れていきたいとの方向性を持つてはいる。しかしながら、そこを強引に推し進めようとは思っていない。 白紙に戻すというよりも、スタート地点に一旦戻らせていただき、保護者からご意見を伺うところからスタートしたい。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
5	小学校に対し特に問題等を感じないが、中学校になると人数が少ないことから、部活動等の選択肢が少ないのが問題点と感じている。中学校になって選択肢が増え、自分でやりたい部活動ができるような環境になることを望んでいる。	やりたいことがやれる環境をいかに整えていくか、教育委員会としても大切にしていきたい。こういう方向性であれば出来るのでは、というようなアイデアを保護者の方からいただきながら、一緒に考えていきたい。
6	今回のような場を設けるということは、今の小高の小学校中学校の教育に関して、何か疑問があるということで話し合いをする必要があることから設けているのか。	教育委員会としては、どうすればより良くできるかと思っており、現在取り組んでいただいている小中一貫教育の良い所をさらに伸ばし、市内に広げていくといった視点をいただきたいと思っている。人数が少ない、選択肢が限られる等、課題はあると思っており、保護者が考えている課題等を伺い、それをさらに良くするための方向性を伺いたく、懇談会という場としている。
7	具体的に小中一貫教育を行っている内容を教えて欲しい。	外国語等の中学校から小学校への乗り入れ授業や、音楽の先生が中学校に行って授業する等の相互の授業を行っていただいている。また、合同での体験活動に力を入れて実施していただいている。
8	体験活動等は、小中一貫としてではなく、行事を一緒にやっているということだけではないのか。	「未来へつなげ！小高の学び」ということで小学校中学校一つの目標に向かって教育目標も知・徳・体同じような方向を向いて取り組んでいる。行事の他にも、合同での避難訓練や運動会等の活動を通し、縦割り集団の中で豊かな心を育んでいる。
9	運動会については合同で行っていないのはいか。	令和6年度までは合同で実施していた。令和7年度については、小学校の運動会が6月上旬であり、中体連の時期と重なったことで、小学校の運動会に参加しないとの流れとなっている。来年度以降も同じ日程だとすると、運動会に中学校が参加するのは難しいと思っている。

(2) 保護者意識調査結果から保護者が考える今後の学校のあり方について

《ファシリテーター：教育長》

【知：学びの充実】

【テーマ：外国語教育】

※当初【知・徳・体】の分野ごと、【知】の分野については項目を分けて実施する予定であったが、保護者からの提案により、項目にとらわれず、自由な意見交換とした。

(①質疑応答の No4 以降)

①主要な意見

- 英語が話せるようになれば良いが、話せないとしても聞き取りができ、単語くらいは返せるようになれば良いと思う。ただ、現在の取り組みの内容で、子どもの英語が成長したという実感は湧いていない。
- 色々課題はあるが、中学校の教育、部活動については、できる範囲で十分やっていただいていると思っている。小学校の教育についても、今のところ十分やっていただけていると感じており、更なる発展という点での意見は難しい。現状のままで十分と感じている。
- 子どもが未就学児1人だが、小学校、中学校での取り組みが耳に入ってきておらず、どうなってほしいと言われても答えようがないので、やっていることについて教えて欲しい。
- 同じ意見で、今どういう状況で小学校、中学校でこういうことをやっているということを知らないと、意見ができない。
- この教育環境とすることで、施設が一体の方が良いという方向に行くのか、先に施設を一体としてから教育環境の話をすべきなのかがわからないので、そちらを先に決めてほしい。
- 英語についてはすでにより良いと思う。
- 小高中学校は、避難から帰還した住民にとって歴史ある地域のシンボルである。耐震性や築年数といった理由だけで小学校校舎へ統合する素案があったと思うが、見直していただけるのであれば、保護者のみならず、地域の意見も必要になってくると思う。一個人の意見としては、部活動の面や設備的な面も勘案し、中学校を設備として残してほしいという考えがある。

②質疑応答

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
1	この話が次に繋がるのか、最初の通り白紙に戻るのか。繋がるなら議論するが、その点はどうなのか。	今回については、今の取り組みで継続してほしいことや、さらに充実してほしいということのご意見をいただき、保護者の希望を実現するためにどういう学校のあり方が望ましいのかについて、次の段階で話ができればと思っている。
2	中学校に進学した際に部活動の選択肢が少なくなるということや、施設の問題等、それぞれが不安に思っていることや、義務教育学校に対する意見等をざっくばらんに話ができれば良いと思うが、ここでは外国語教育について話さなければならないのか。	最初から義務教育学校にするために何をしようか考えるのではなく、まずは今行っている教育に対して保護者の方がどう考えているのかをお聞きしたいというのが本項目の趣旨である。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
3	令和7年度に英語弁論大会で賞を取った生徒がいたが、令和6年度までに外国語教育に力を入れていた積み重ねの結果だと思っている。 令和6年度は外部講師の方が中学校に出向いてきて発音の練習をしていただいていたが、令和7年度はそのような指導やT G Gの研修もなくなり、果たして外国語教育に力を入れているのか実感が湧かない状況なので、こうした指導は続けてほしいと思っている。	ご意見のとおり、今年突然学力が上がったというわけではなく、小学校から続けてきた成果が繋がっているのだと思う。今いただいた話は真摯に受け止めたい。
4	こども園と小学校のフォニックス学習はとても良いと思っている。小さいうちから楽しく教えていただけるのは今後に繋がってくると感じている。ただ、英語教育ばかりでなく、何でも諦めずやってみる、他者に相談してみる力があれば、やってみたいことがあればやるのではと思っており、やはりこの場で話をするのが腑に落ちないところがある。	英語に特化して話すこと自体、保護者の考えとずれているのかもしれない。意識調査の結果でも【知】の部分では自分の意見や考えをはっきり話すことができる子どもになってほしいと保護者は考えており、そこと英語はあまり関わらないのかもしれない。
5	日々安心してここが自分の居場所だと思えることができ、ここで大きくなるという自信が持てる、そういう場所を作りたいと思っており、この場で話せば嬉しい。	テーマごとに話をしようと考えていたが、そこを外し、小高のため、もしくは居場所作りや子どもたちがいろんなことにチャレンジするための取り組みについて、あまり英語にこだわらずにお話いただければと思う。
6	未就学児のみの保護者だと小学校、中学校の情報は入ってこないと思うし、逆に中学生のみだと、未就学児、小学校で何をやっているのか、そこの共有が図られていないと思う。書類等で情報共有されているのかもしれないが、学年差を考慮した情報共有をしてもらえればと思う。	小高小学校、小高中学校、市の取り組み等について次のとおり説明。

①小高小学校の取り組み等について（小高小学校長から説明。）

- ・市内で唯一、ALT（※1）が学校に常駐している。
- ・小中一貫校の制度を活かし、高学年の英語授業は「担任」「ALT」「中学校の英語教員」の3人体制で行うことができる環境となっている。
- ・中学校の教員が小学校で教えるだけでなく、小学校の教員が中学校で専門教科を教えるという先進的な取り組みも始めている。
- ・地域のご厚意で費用を出していただいて、ブリティッシュヒルズでの英語研修に参加している。
- ・そこでは全てネイティブの人が授業を行うが、子どもたちは英語の指示を理解して行動しており、幼小一貫した教育により「聞く力」が育っている。

- ・幼稚園で行っていた発音の授業については、小学校・中学校では時数の問題があり、2時間程度しか設けられない。ただし、次期指導要領になると、学校の裁量で時数を生み出すことが可能になることから、それによって発音の授業を増やすことが可能になるかもしれない。

②小高中学校の取り組み等について（小高中学校長から説明。）

- ・中学校の教員が小学校で英語や音楽を教える一方、小学校の教員が中学校で理科を教える「乗り入れ授業」を行っており、互いの専門性を活かした教育を実践している。
- ・海外研修については、小規模ならではの取り組みとして、行ってきた生徒が全校集会で課題発表を行うといったことに取り組んでいる。そうした先輩の発表が後輩の意欲を刺激し、例えば現在の2年生女子は全員が海外研修に参加するなど、参加への好循環が生まれている。
- ・小規模な学校でありながら、全教員が担当教科の免許を持っている。免許外の教員が授業をすることがない、専門性の高い授業を受けられる恵まれた教育環境が整っている。

③市の英語教育について（学校教育課教育企画担当課長から説明。）

- ・年齢に応じて段階的に英語のインプット・アウトプットを増やすことを目指した英語教育を行っている。

【幼稚園・保育園】

言語能力に係る脳や耳が最も発達する幼児期に「えいご発音遊び」を導入。遊びの延長として、日本

語にないRとL、THの音の違いなどを自然に身につけさせる。

【小学校】

外国語の授業において、幼稚園での音遊びから一歩進んだ「フォニックス（※2）」を導入。英語の「音」と「文字」を結びつける学習を行っている。

【中学校】

さらに実践的な機会を増やし、ALTによる集中ワークショップ、海外研修、東京グローバルゲートウェイ（※3）への参加などを実施。また、年1回の英検受験料を市が補助し、学習意欲をサポート

（※1）学校の授業で、英語の先生と一緒に教える外国人講師のこと。

（Assistant Language Teacher）

（※2）英語の「つづり」と「発音」のルールのこと。

（※3）東京都にある体験型英語学習施設のこと。（通称「TGG」）

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
7	学校のあり方の協議は2段階になっていくものと思っている。まず第1段階が、校舎を一体化し、より一貫した教育ができるから進めてはどうかという保護者への提案及び議論があり、それが行われた後、より良くしていくための議論が入ってくると思っている。今回は第2段階の議論になっているのではないか。	当初は一緒にすること前提で議論させていただいたが、そこで保護者とのギャップがあったということで、現状の取り組みを共通理解し、それを円滑に進めるためにどういう教育環境が良いかを話したいと思っている。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
8	あり方の方向性を決めるのはまだ早いと思っている。今の小高小学校、小高中学校の取り組みを聞き、小中学校の先生の乗り入れや、縦割り活動は大事だと思うが、体力面や体格等で小学校中学校は大きな差がある点が心配に感じている。教育委員会の考えとして、より良い教育のため、というのがあると思うが、施設の老朽化や費用面等の実状の懸念点があれば共有してほしい。そういうものを知った上で議論させてもらえればと思うが、そういった面はいかがか。	小高小学校、小高中学校の校舎の建築年数は、ともに校舎の耐用年数である80年を下回っており、今すぐどちらの校舎が問題だから統合するという事はない。
9	統合することにより学校の管理費が減り、その費用を別の何かに充ててより良い教育ができるのか、それともそのまま分けてやっていた方が良いのかという議論も必要だと思っている。	学校が1つになった方が、維持管理費は減る。ただ、統合したからといってその分の予算が回ってくるかというと、そうはいかないと思う。しかしながら、もし統合の方向性ということであれば、皆様のご意見を入れながら、皆様の要望に応えられるような学校づくりや維持に努めたい。
10	外国語教育は重要ではあるが、外国語教育に偏りすぎると、学んだことを活かせる仕事は地元になく、子どもたちが将来戻ってくる選択肢を失う懸念がある。そこで、G I G Aスクール構想を話させていただいている。義務教育課程でICT教育（※4）を取り入れることで、災害時等でも学べる環境が整えられる。また、高度なICTスキルや語学力を身につけることで、将来地元で起業する等、子どもたちのキャリアの選択肢が広がる。併せて、郷土愛についても育んでほしい。	今行っているものはさらに伸ばしていくし、小高の4小学校統合の際に、検討協議会の中で、小高に誇りも持てる子どもを9年間で育ててほしい、という意見があったので、ご意見の通りだと思う。

（※4）パソコン、タブレット、インターネットなどのデジタル技術を授業や学習活動に取り入れること。

No	保護者、市民からの意見	事務局からの回答
11	もし義務教育学校を立ち上げるとするならば、小高ならではの特色がある、小高だからこそ学べる義務教育学校を作ってほしいと思う。それが実現すれば、小高に通いたいという子どもが出てきて、移住者も増えるのではないかと思う。	どこにでもあるような学校を作ろうとは思っていない。小高ならではの学校にしたいと考えている。今いただいた意見の中では次の部分に力を入れてほしいと感じている。 ・英語教育の継続・発展 ・ＩＣＴ教育 ・郷土愛を育むこと ・健やかな体づくり
12	小高ならではのと思うのが、放課後の子ども教室であり、地域の物事を取り上げてやってもらっているのが、ありがたいと思っている。また、小学校とＮＩＫＯパークで連携してもらっているところも、他にないと感じている。生活科の「まち探検」では、子どもたちが地域の商店や施設を安全に訪問し、仕事について学べるのも小高ならではのと思っている。地域の和気藹々としたところで育っているというのをとても感じている。	探究に係る部分のご意見と思う。探究したことについてＩＣＴを使用した活動を取り入れていけば、プログラミングとも繋がり、キャリア教育も進んでいくのではないかと感じたところである。

【決定事項・今後の対応など】

出された意見については、検討準備協議会へ報告し、適正化の方向性検討の参考とする。